

令和5年度 第2回さいたま市立教育研究所運営委員会 会議録

1 開催日時 令和6年1月19日(金) 10時00分～11時15分

2 会場 さいたま市立教育研究所 2階 第2研修室

3 出席者名

<運営委員会委員>

※敬称略

堀田 香織(委員長) 田中 洋安

河野 秀樹 田中 一秀

渋谷 恵子 五十嵐 淳

細井 博幸 小口 聡美

大原 照光(代理) 加藤 寛陽(代理)

入澤 真理香 青木 翔吾(代理)

伊藤 真弓

<事務局職員>

所 長 深津 健太郎

所長補佐 後藤 正憲

調査研究係長 大澤 貴史

研修係長 阿部 史朗

I C T教育推進係長 関 正人

欠席者名

<運営委員会委員>

安藤 幸子

吉野 浩一

4 会議の公開 公開

5 傍聴人 0人

6 内 容 (1) 令和5年度教育研究所の事業報告等について
(2) 質疑、協議

7 問い合わせ先 さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所
電話 048(838)0781

8 質疑応答・協議要旨

○=委員から ・=所員から

委員長	○「学び方」・「教え方」・「働き方」の改革に資する教師のICTリテラシーの向上について協議を進めていく。説明のあった各事業の最終ページに協議事項が掲載されている。どの事業からでも構わないので発言いただきたい。
委員	○達成状況面談を行っているところである。研修履歴を基にした受講奨励という話であるが、研修履歴は今現在使える状態になっているのか。
事務局	・国の構築しているシステムに関しては、国の示している方針によると3月から操作可能とのこと。今、運用開始に向けて、教職員の情報や教育委員会で受講した研修履歴データ移行の準備を進めているところである。現在、活用することはできていない。
委員長	○3月にデータを国のプラットフォームにアップし、その後、稼働するという話である。研修履歴、達成状況、研修奨励について、他に感想や体験等があれば発言いただきたい。
委員	○当初面談で、ただ研修を受けるように言っても、教員は何の研修を受けたらよいのかが分からない。教育委員会が示している研修一覧等を活用して、まずはそこから選択し受講するよう指示を出してきた。現在行っている面談で結果を聞いてみると、研修での学びが具体的に自己評価に記入されている。具体的な働きかけをするよいきっかけとなった。
委員	○達成状況面談をする際、教職員には、最初にキャリア振り返りシート、次に自己評価シートという流れで、1年間の取組を説明させている。キャリア振り返りシートは、自己評価シートの内容ともリンクしており、教職員も自己評価シートを書く上でプラスになると感じる。項目も具体的に視点等が書いてあるため、教職員の業務に沿った内容だと感じる。そのため教職員も話しやすい。デジタルデータの利活用も進むが、キャリア振り返りシートも次年度にもつながるものになっているとよい。
委員	○高校と小・中・特別支援とのシステムの違いを確認したい。SSSPの研修に高校も対象に含まれていると思っていたが、教育研究所から高校は対象に含まれていないという話があった。高校は何が含まれているのか、ICTの支援が対象でないこと等も含め確認したい。
事務局	・SSSPは、学び方、教え方、働き方改革の在り方を変えていくことであるため、高校も含まれると認識している。スクールダッシュボードは、高校が利用しているシステムとの相違から、対象とはなっていない。基本的にICT支援は、学校からの要請があれば対象となる。その認識を全体で共有することが大切である。
委員	○高校にアンケートや調査をしていないものもあった。回答できそうなものは、高校も含めていただきたい。
事務局	・説明で示したグラフは、全国学力・学習状況調査や市学力学習状況調査の質問であるため、高校が対象ではない部分もある。
委員	○教職員対象のアンケートや調査でも高校が含まれていないことがあった。先生方対象の場合はお願いしたい。

委員	○教職員と面談をしている中で、様々な学びをしていることが分かった。限られたものだけでなく、様々な研修を履歴として残すことが必要と感じる。校内の研修等、記録に残りにくい研修も履歴に残せると先生方にとってありがたい。
事務局	・今後、教員研修プラットフォームから申し込んで受講できる研修に関しては、研修を受講したら自動的に受講履歴として流れるようになっている。それ以外の研修についても管理職の判断で追加することも可能である。教育委員会として明確に線引きができていないので、引き続き示し方を検討していく。
事務局	・さいたま市としては、今年度に関しては Forms に入力している。今後、システムが稼働したら生かせるようにしていく。
委員長	○校内研修も Forms に入力していくと研修プラットフォームに反映され、履歴に残るというイメージのようである。研修の話が続いているが、他に発言はあるか。
委員	○校長として職員に推進するとき、どこまでの範囲を研修履歴として掲載していくのか。市教委主催、民間、有料の研修も入るのか等、どの学校も迷っている。範囲が明確になると推奨しやすくなる。
委員	○例えば指導1課の研修や会議、作成委員会なども入ってよいのではないか。本人のための履歴であるため、幅広くてよいと思っている。履歴として残しておき、自身のキャリアの振り返りに使用できればよいのではないか。
事務局	・現時点での想定では、昨年の校長会でも示したとおり、国が定める研修以外についても、校長が認めたものを履歴として認めることができるよう想定して検討している。幅広く教職員の学びを認めていけるようにしたい。
委員	○埼玉県については、来年度は試行で国と県のシステムの両方を活用していく予定である。県の総合教育センターで行っている研修では、指標に基づいて、次のステップを研修会ごとに示すようにしていく。
委員長	○研修について意見が続いたが、それ以外についての発言等はあるか。
委員	○スクールダッシュボードの生活や健康の状況を把握するアンケートについて、健康管理の手助けとなるものであるが、アンケートの導入より健康観察をやらなくてよいと誤解している養護教諭もいる。健康観察は、あくまでも教職員が観察するものであり、本人が元気だと言っても、大人から見れば元気でないこともある。大事なことは今までと変わらない。子どもを見なくてよいという訳ではない。情報活用のリテラシーについても考えていく必要がある。
事務局	○栄養教諭の多忙感が問題になっている。食物アレルギーの対応や献立管理等の情報を盛り込んでいくことはできないか。
事務局	・子どものアンケートを実施しても、健康観察は実施する。スクールダッシュボードは、子供たちが発せない声が見える化するためのツールであって、対面で行う健康観察は別のものと捉えていただきたい。より多くの気付きを与えるためのツールである。
事務局	・スクールダッシュボードには、多くの情報を入れ過ぎてしまうと、先生方が見る際に大きな負担になる。まずは日常的に変化するデータから見える化していくことに取り組んでいく。学習状況調査のように、年間を通して変わらないデータ等については、極力減

	<p>らしていく。アレルギー等の情報の必要性も理解はしているが、現段階では入っていない。</p>
委員長	○スクールダッシュボードの活用状況について、御意見があればいただきたい。
事務局	・まだ稼働していない。今週からテスト運用が始まっている。本格稼働は来年度の4月からとなる。
委員長	○スクールダッシュボードについて、何かあれば御意見いただきたい。
委員	○中学校で生徒指導をしていると、心と生活のアンケートの関係で指導2課に連絡を入れることが多い。今後、スクールダッシュボードを開いて、その対応が指導2課と連携しやすくなることはありがたい。ただ、心と生活のアンケートについての画面表示がないのは根幹に関わることはないか。心のサポートの手引き等も掲載されていることがありがたいが、そこに掲載されている主となる情報が表示されないのは系統的に難しいのか。
委員	○先行実施校の具体的な取り組み方はあったが、運用面の先行研究としては足りない。先行実施校のマインドだけではなく、具体的なノウハウ等についても示されるとよい。
事務局	・スクールダッシュボードにおける「心と生活のアンケート」に関するデータは、確かに項目が少ない。どこまで掲載するかについては、今後調整していく。
事務局	・先行実施校におけるヒアリングで把握した内容を、利活用モデルに落とし込んでいる。これからさらに分かりやすく示していく必要がある。
委員長	○心と生活のアンケートはWeb上で見られるのか。スキャンするのか。
事務局	・教員が情報を入力していく。手書きのよさもあれば、一方で限界もあるため、今後検討をしていく。
委員	○様々な手順を踏んでスクールダッシュボードの構築をしていると思うが、今後マイナーチェンジができるのか。契約上、一回作成したもので何年間か使用しなければならないのか。
事務局	・マイナーチェンジをしていきたい。活用状況を見ながら変更していくため、これで完結ではない。予算の関係もあるが、できる限り変更を加えながら進めていく予定である。
委員長	○予算のこともあると思うが、声を集約して行っていただきたい。
委員	○新しいことであるため、現場はまず負担感がどうしても先に来ってしまう。トライアンドエラーで行ってみて、エラーが出た場合には改善して進めていければよい。MEXCBTの時もそうだが、現場で一斉に開いた際にシステムが稼働するかが重要である。
事務局	・先日の市学習状況調査ではL-Gateにサインインするところで不具合があり、学校に大変な迷惑をお掛けすることがあった。朝のアンケート入力もL-Gateを使用するため、脆弱性が発見された部分をどう解消していくかを確認している。
事務局	・今後、全校で一斉試験を行う予定である。(2月の中旬頃に校長先生方に説明する。)朝、子どもたちがログインをした時に耐え得るか等を検証していく。
事務局	・L-Gateについては、今後、同様のトラブルが起こらないよう業者に依頼をしている。現在、業者も対応をしているところであるが、想定外のことが起こる可能性もある。活用状況が進み、アクセスの集中も考えられるため、テスト運用期間を課題の洗い出し期

	間と捉え、試行させていただきたい。つながりにくさ等については、スクールダッシュボードの報告欄から連絡してほしい。
委員長	○最後に、これだけは伝えたいという内容があれば、お話いただきたい。
委員	○学校には新しいことが始まることに対する不安がある。SOSを見逃してしまった際の不安等もあるが、子どもたちを支援するために大変有効なシステムである。ぜひこの期間に学校で様々な形でテスト運用をし、課題を出してもらいたい。
委員	○Wi-Fiは子どもの学習環境を整えるために整備したものであることは承知している。ただ、働く環境を整えるという意味でも、保健室のWi-Fi環境を改善してほしい。
事務局	・国のスキームの中では、まず子どもの環境を優先するという補助金体制になっている。Wi-fiについては、限られた予算で何がベストかを学校と一緒に考えていきたい。何か意見があれば、教育研究所に連絡いただきたい。
委員長	○これから溜まっていく膨大なデータがどのように活用されていくか、今後期待していきたい。今日の意見を教育研究所で生かしていただきたい。
事務局	・新しいことに対する不安は相当ある。校長先生方には、そのような教職員の声、課題感を教育研究所に寄せていただきたい。